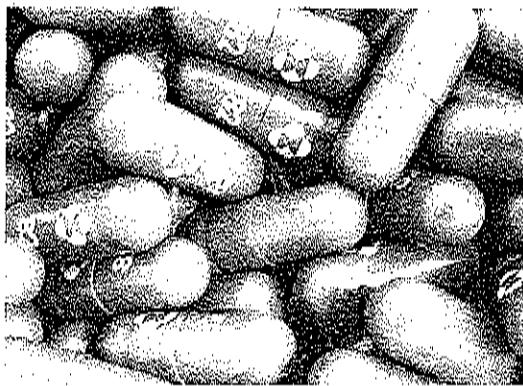


## 治験最終段階年内実用化か

1月13日

# コロナ飲み薬 高まる期待



①米メルクなどが開発中の飲み薬「モルヌピラビル」=ロイター・共同  
②塩野義製薬の新型コロナの飲み薬

新型コロナの治療薬には、ウイルスに作用して人の細胞への侵入や増殖を防ぐ「抗ウイルス薬」「抗体医薬」と呼ばれるものと、過剰な免疫反応によって引き起された炎症を抑える「抗炎症薬」の二種類に大きく分けられる。

国内では中等症や重症の患者に対しては、抗ウイルス薬の「レムデシビル」や抗炎症薬の「アキサメタゾン」「パリシチブ」が主に使われる。軽症者に投与できる薬としては一種類の抗体医薬品を使う「抗体力クテル療法」や「ソトロビマブ」といった抗体医薬が承認された。重症化リスクを持つ人が対象で、病状の悪化を防げるとして政府は活用に積極的だ。

一方で課題もある。新型

D(A)に新型コロナウイルス感染症の飲み薬の緊急使用許可を申請した。認められれば初の飲み薬となる。治験では、入院や死亡のリスクを半分に抑えられたとの結果が得られており、自宅で服用可能で、感染初期に多くの人が使えるため、新型コロナ流行の「出口」につながると期待の声が上がる。日本政府も年内実用化を念頭に、調達や審査を進める方針だ。

### ▽症状で使い分け

新型コロナの治療薬には、ウイルスに作用して人の細胞への侵入や増殖を防ぐ「抗ウイルス薬」「抗体医薬」と呼ばれるものと、過剰な免疫反応によって引き起された炎症を抑える「抗炎症薬」の二種類に大きく分けられる。

国内では中等症や重症の患者に対しては、抗ウイルス薬の「レムデシビル」や抗炎症薬の「アキサメタゾン」「パリシチブ」が主に使われる。軽症者に投与できる薬としては一種類の抗体医薬品を使う「抗体力クテル療法」や「ソトロビマブ」といった抗体医薬が承認された。重症化リスクを持つ人が対象で、病状の悪化を防げるとして政府は活用に積極的だ。

一方で課題もある。新型

「コロナ対策には早期の投薬が重要だが、軽症者に使えるのは抗体医薬のみ。ただし抗体医薬は点滴形式のため医療現場に負荷がかかりやすい。さらに費用が一人につき数十万円程度かかるとみられるなど高額で、広く使うにはコストの面で難しい専門家は指摘する。

### ▽リスク半減

こうした事情から、登場ス薬の「レムデシビル」や抗炎症薬の「アキサメタゾン」「パリシチブ」が主に使われる。軽症者に投与できる薬としては一種類の抗体医薬品を使う「抗体力クテル療法」や「ソトロビマブ」といった抗体医薬が承認された。重症化リスクを持つ人が対象で、病状の悪化を防げるとして政府は活用に積極的だ。

一方で課題もある。新型



国内企業では塩野義製薬を集めた。海外の企業ではスイスのロシュや米ファイザーの飲み薬も治験の最終段階にある。

国内企業では塩野義製薬が最終段階の治験を開始している。軽症者や無症状者に対し、一日一回、五日投与した場合の有効性などを評価する。初期段階の治験では目標を上回る結果が確認されたという。

### ▽予防にも

飲み薬が登場すれば、陽性と判定された感染者にすぐさま投与することで悪化を防ぐことができる。さらに一段階での投与を視野に入れ、そのものを防ぐために予防段階での投与を実施。フェイザーや、感染者と同居していた人で迅速抗原検査で陰性だった人を対象とした治験に取り組む。

一方で課題もある。新型

開発中の主な飲み薬	開発会社	開発段階
メルク	モルヌピラビル	II期(開発段階)
ロシュ (中外製薬)	AT-527	II期(開発段階)
ファイザー	PF-07321332	II期(開発段階)
塩野義製薬	S-217622	II期(開発段階)

国立国際医療研究センターの杉浦亘・臨床研究センター長は「飲み薬はいま使われている抗体医薬よりもコストが低く、製造も容易なため世界中で幅広く使えた」と指摘。「ワクチンに加えて飲み薬が登場すれば、新型コロナを「普通の感染症」として扱うことも視野に入ってくる。流行の出口が見えてきたといえるだろう」と話した。